



子どもたちの体力向上と コミュニケーション能力を育むために

一中のホームページを眺めていると、MRC自然研究部という聞き慣れない部活動の名前が。MRCは“将来、自然の事象に興味関心を持った時に、研究ができるように体力をつける部”で“もしあなたが帰宅部を選択しようと思っているなら、MRCに入りましょう”と勧誘しています。

果たしてMRCとはどんな部活動なのでしょう。

MRCは、“Maruta Recreation Club”の略称で、福島正恵先生あきお・丸田昭男先生あきおが顧問を務める“文化部”です。現在の部員は36名。毎週火曜日から金曜日の朝、7時50分から8時10分までを活動時間としています。

MRCには、決められたルールや日課はなく、また、垣根もなく誰でも自由に参加できます。スポーツ用具やレクリエーショングッズだけが用意してあり、あとは子どもたちの自由な発想を尊重しています。子どもたちは校庭に飛び出し、遊び感覚で自由に体を動かしています。

習い事の関係で部活動に所属していない子や運動が苦手な子など、参加している子どもたちもいろいろ。運動が苦手な子で、運動部は敷居が高いと思っている子どもたちも、MRCならば気軽に参加でき、自由に体を動かしながら、知らず知らずのうちに体力をつけているのです。また、自分たちでその日の活動やルールを決めることで、コミュニケーション能力も養っています。

さらに、“文化部”として活動の幅は、朝の運動だけにとどまりません。春や夏の長期休暇に、高尾山の登山や天文台・水族館などへ出かけていき、校外学習も実施しています。理科教員の福島先生・丸田先生ならではの活動です。

MRCはその名のとおりに、丸田先生が長年にわたって取り組んできた活動です。前任の狛江第二中学校、さらには世田谷区の中学校で教鞭をとっている頃から、MRCの活動に取り組んできました。

そんな丸田先生にMRCや子どもたちへの思いを尋ねてみました。

「自由な時間が余りない今の子どもたちに、MRCの活動を通じて、いろいろな発想を育めるようになってほしい。また、人に対する優しさ、仲間外れなどしないで多様性を認められる、そういった子どもになってほしい。」

今日も丸田先生は温かい眼差しで子どもたちの成長を見守っています。

